

コニカミノルタグループ  
2013年(平成25年)3月期  
第2四半期決算説明会  
主な質問と回答

日 時: 2012年10月31日(水)18:30~19:30  
場 所: 野村コンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

■ 情報機器事業関連

Q: 米欧の主要国では第2四半期後半より景況が一段と悪化したという話を耳にしましたがコニカミノルタではそのような影響はなかったのでしょうか。

A: 米国はPMI(購買担当者指数)が50を超えるなど、景況は緩やかに回復しているものと考えます。欧州については依然不安定な状況が継続していると認識していますが、当社が強い販売基盤を持つ西欧や東欧諸国の情勢は安定しており、欧州全体に占める売上構成の7割強を占める同地域では、現地通貨ベースでの売上高が前年比で堅調に伸びています。一方で南欧や一部の北欧諸国では売上が減少していますが、これらの地域における売上構成比は低く、影響も限定的であり、欧州全体としては、現地通貨ベースでの対前年売上高伸長率は2%増と成長を維持しています。

Q: 情報機器事業の通期業績見通しを営業利益で70億円減額していますが、その背景について教えてください。

A: 上半期の状況として、第1四半期決算の時点でユーロの前提を105円から100円に見直しました。円高によるインパクトは販売拡大で吸収する予定でしたが、第2四半期もユーロ安が98円まで進行するなど上半期で10数億円の影響を受けると共に、中国での生産工場再編に伴う一時的なコストアップが約10億円ありました。下期は為替の影響として約20億円、その他諸々のリスクとして20億円程度を織り込んでいます。

Q: 情報機器事業における中国リスクはあるのでしょうか。

A: 中国リスクには経済環境の問題と、領土問題に起因するものとに分けられます。

上半期の中国向けの販売は伸び悩みましたが、内訳を見ると直販は堅調であった一方で、代理店向けは買い控えにより減少しています。当社製品を扱うトップディーラー複数社からの情報によれば、現在の状況が長期間継続するものではないとの感触を得ています。一方、政府系のビジネスではクロージングが一部ずれ込むなどの報告もありました。但し、中国での売上は情報機器事業全体の2~3%程度であり、当事業全体への影響は殆どありませんでした。

## ■ 産業用材料・機器事業関連

---

- Q: 液晶偏光板用TACフィルムは今後、競争激化が予想されますが、対応策について教えてください。
- A: 視野角拡大用VA-TACフィルムでは、13年春モデル向けの一部で影響を織り込んでいますが、当社の強みとする薄膜品はモバイル用途への拡大もあり、引き続き堅調に推移するものと考えております。これらの影響は下半期の見通しに既に織り込んでおり、上半期比でのTACフィルムの販売数量は10%程度の減少に留まるものと考えております。

- Q: デジタルー眼用の交換レンズや色計測機器も堅調ですが、その背景について教えてください。
- A: 交換レンズは現在、特定顧客向けのビジネス主体に販売が好調ですが、今後はミラーレス用製品への採用拡大も見込まれます。色計測機器については、スマートフォンやタブレットなどのディスプレイ製品の検査用に、色彩輝度計の販売が好調に推移しています。下半期の色計測機の販売数量前提は、総量では減少していますが、大口顧客向けの高付加価値製品は引き続き堅調に推移する見込みです。

## ■ グループ全体

---

- Q: 有機EL照明事業におけるコニカミノルタの強みについて教えてください。
- A: 現在、フレキシブル照明の事業化に向けて、必要な技術が揃いつつあります。当社の強みはフィルム上に大面積でコーティングする生産方式にあり、技術的にこの方式で生産が可能な競合は非常に限られていると認識しています。

以上